

福田寺だより

発行 55

神奈川県小田原市飯田岡二五七

飯田山 短冊 田 主寸 36-27

住職 橋本尚信

本堂・客殿 落慶法要要修行

四月二十九日 厳修

平成二年四月二十九日、この日は福田寺にとっても、檀家のみな様にとっても、未来永劫語り継がれてゆく記念すべき日でありました。本堂・客殿の落慶式という、数百年に一度しか巡り合うことのできない法要式典が挙行されたのです。準備は数ヵ月前から、近隣寺院をはじめ、世話人さん、役員さん、その他お手伝いの方々、様々な人に尽力いただき著々と進められました。

特に住職が気をつかったのは、伝

統的な法要と現代人の感覚との調和でありました。どのような演出によれば、参列した人々が楽しく、晴れやかに、しかも厳かな法要が修行できるかということでした。幸い、良き人々に恵まれ、各人が持てる力を充分發揮してくれて、素晴らしい法要・式典が出来ました。このことは参列していただいた方にはわかっていただいたのではないかと、自負しております。

四月二十九日朝四時、前日から曇りよりとしていた空から霧雨が降り始め、時として強く、時として弱くという状態が続き、午前七時頃には傘無では居られない雨となりました。その間、住職はじめこの行事の運営に携わってきた、奉行・承仕・その他の方々、特に大磯の車夫、岸さん等は心の中で祈り、どうにかして予定どおり行列・庭での儀式を執り行いたい気持ちでいっぱいでした。勿論雨用の次第も出来てはいたものの、何といても外での儀式が主をなす落慶式ですから、それは使いたくありませんでした。

九時には最終結論を出さなければ式が順次遅れてしまう。準備を進めてきた誰も心に、動揺とあきらめが出始めた九時少し前、とても止みそうになかった雨が小降りになり、そしてみるみるうちに止んでしまったのである。

しかし、又何時降り始めるか知れない空を見上げつつ予定どおり執行を決定。お稚児さんの記念写真撮影をかわきりに、外での式が順々と進められていった。十時の練り供養行列が出発する頃は、もはや、天が我々の熱意と祈りに暗雲を吹き飛ばしてくれたように、晴れ間さえ出てきたのである。

仏旗を持つ建設委員、四十名を越



すお稚児さん、スリランカ僧、御詠歌隊の練り供養の中に、人力車に乗った会奉行、御駕籠に乗った住職の晴れやかな行列がゆっくりと進み、境内に入ると紫衣に黄色如法衣の僧侶がたち並び、庭上での法要がはじまる。声明の響きとともに、新本堂の銅屋根から散華が群衆の頭上に撒かれ、参列の皆々随喜の趣に浸っていた。

堂内での法要が始まり、本尊薬師如来さまの扉が開かれると同時に、東方から陽の光が燦々と堂内を照らし、まさに薬師如来さまの霊光、堂に満る雲囲気のように、法要・式典が無魔終了したのである。

この記念すべき落慶式を終えて感ずることは、真に念ずることの不思議な力でありました。仏・菩薩の存在が改めて偉大に感じられ、その威光に何時も包まれている自分（人間）があるということでした。



後々わかったことですが、この日、大井松田のあたりでは、どしゃぶりの雨が続いていたらということ、どうやら青空の好天気は小田原地域のごく限られた範囲であった模様です。

落慶の 旗 横の芽に

照りそよぎ

§ § § § § § § § § § § § § § § § § § § §

§ お経のよみかた講習会 §

§ 毎月決まった日の夜に §

§ アンケート結果 §

§ § § § § § § § § § § § § § § § § § § §

去る七月七日の施餓鬼会の際に皆さんに「お寺に望むもの」としてアンケートをいただきました。その結果、内容面ではお経の読み方を知りたいという方が多数ありました。その他の講演や稽古ごと、写経や密教禅も皆さん積極的に求めておられることが理解できました。とりあえず平成三年度の計画として、真言宗のお経の読み方の練習会を実施してまいります。

日時については、それぞれ都合があるとおもいますが、毎月決まった日の夜を希望する方が多いようですのでその方向で検討したいと思います。詳細は後日連絡いたしますので、奮ってご参加ください。その他のものについても順次実施してゆきたいと思えますので何かご意見が有りましたら、お聞かせ下さい。

元旦祈願

除夜の鐘とともに、本堂の扉を開けておきます。午前0時より一時まで、住職により新年の御祈禱が修法されますので、ご自由に初詣下さい。尚、年賀等一切不要ですので念の為。

暮れのお参り

古い護摩札やお守りなどは、暮れのお参りの時に、本堂入り口に用意された納め場所に納めて下さい。特に大きなものや、燃えないものは、寺の者に連絡して下さい。

新年厄除け薬師護摩供養

申し込み受付中

一月八日午後一時より修行

真言密教には、病気を主に他のあ

らゆる苦しみから逃れる手段として
薬師如来を奉り、一切の苦難の原因
を取り除く護摩供養が、千数百年の
間連綿と受け継がれています。

人間の心底からの願い、悩み、苦
しみを、真正面から受け止めてくだ
さる仏様、それが薬師如来さまであ
ります。現実を肯定する密教にあっ
て、自分をさらけだしておすがりで
きる仏様です。

福田寺の本尊は、この薬師如来さ
まで、古来よりその靈験は近在に知
られております。新年恒例の薬師護
摩供養会を下記の要領で修行いたし
ますので、護摩ご希望の方はお申し
込みください。檀家以外の方でも勿
論結構です。

記

期日・・・一月八日、午後一時より

祈禱料・・・三千元

祈禱内容・・・厄難消除（厄よけ）

身体健全、病魔退散

家内安全、その他

申し込み・・・一月七日まで、電話可

平成三年厄年

男性

前厄 昭和二十六年生まれ

本厄 昭和二十五年生まれ

後厄 昭和二十四年生まれ

女性

前厄 昭和三十五年生まれ

本厄 昭和三十四年生まれ

後厄 昭和三十三年生まれ

法 語

たとい百歳の寿命を得るも、

無上の教えに会うことなくば

この教えに会いし人の、

一日の生にも及ばず。

法句経

一つの華が重なっているのは

五枚の花びらである。

五枚の花びらが開くのは

一つの華である。

道 元

人の悪しきことは

よく見えるなり。

わが身の悪しきことは

覚えざるものなり。

蓮 如